

「女子中高生夏の学校 2018～科学・技術・人との出会い～」への参加報告

○開催期間：2018 年 8 月 9 日（木）～11 日（土）＜2 泊 3 日＞

○参加者：女子中高生 96 名の参加（全国から宿泊付）の他、大学生・大学院生スタッフ、理系分野の学協会・大学・高校・企業から 200 名以上が実行委員やプログラムスタッフとして参加

○主催：独立行政法人 国立女性教育会館（NWEC）

夏休み恒例のこのイベントは、3 日間の合宿研修における、理系分野で活躍する女性の講演、各学会や企業等による実験・実習やポスター展示など、多彩な構成のプログラムを通じて、理系に関心を寄せる女子中高生たちが、自分の将来に肯定的で具体的なイメージを持てるようになることを目的としています。

当会は、2 日目（8 月 10 日）のポスター展示・キャリア相談に、（公社）土木学会市民交流研究小委員会とコラボで参加しました。土木学会では橋の模型等を使いながら土木の楽しさ・面白さを伝えており、当会では「顔いっぱいポスター」や「CE の扉」を使って、土木とは何か、女性技術者がどのように活躍し、また、ワークライフバランスに取り組んでいるか、等を伝え、ブース全体として、女子中高生の将来の選択肢の 1 つとして、土木の世界を伝える場となりました。

当会からは、東日本支部の小林千佳支部長と大橋麻衣子さんが参加。参加学生は、進路選択の一助とするためにこの合宿に応募しただけあって、とても熱心な学生さんばかりでした。土木を志している、という学生さんとはお会いできませんでしたが、大半の学生さんが「土木の仕事には女性が少ないという印象だった」と話されており、彼女達が活躍する時代にはますますその選択肢が広がるだろうと認識してもらったのではと思います。なお、同企画には、来年度も参加予定です。

詳細については、（独法）国立女性教育会館の以下のサイトをご覧ください。

https://www.nwec.jp/event/training/g_natsugaku2018.html



将来の選択肢について女子中高生にアドバイス



土木学会のスタッフと記念写真

（文責）小林